

◆やまがた子育て講座◆

事例1 「ゲーム・ネット依存を予防する子供との関わり方」

会場：天童市立寺津小学校（講師はオンラインで講演）

講師：増田 貴久 氏（精神保健福祉士・公認心理士・ASK認定依存症予防教育アドバイザー）

<講演会>

- 1 依存症の心理を知ろう
 - ・熱中と依存のちがいは？
- 2 ゲーム・ネットと勉強の関係性
 - ・ゲーム・ネットと勉強を分けて考える
- 3 子供へネットに触れさせる必要性を理解する
 - ・ゲームやネットは悪いもの？
- 4 子供に自信を持たせるルールづくり
 - ・ルールのつくり方



<感染防止対策>

- ・Zoomによるオンライン開催、各教室に分かれて少人数で視聴 など

<参加者の感想>

- ・強制的にゲーム環境を取り上げるのではなく、日々の子供とのコミュニケーションを大切にし、ゲームに対する理解を深める必要があると学ぶことができた。
- ・親がルールを守らず、子供にルールを守りなさいと言うことはおかしいという基本的なことに気づかされた。

事例2 思春期の入り口にある子どもたちへの関わり方

会場：最上町立大堀小学校

講師：後藤 敬子 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

○心の絆創膏が必要

- ・失敗も挫折も生きる力に。無駄になることは何もない。

○「命」を輝かせるには、人と人との関わりが重要。

○当たり前のことが当たり前でできることに感謝を。

○家族との出会い、人との出会い、仕事との出会い、ひとつひとつの出会いを大切にしよう。

<感染防止の工夫>手指消毒、マスク着用の徹底

<参加者の感想>

- ・子どもと一緒にいる時間は限られているので、これからの家で過ごす時間を大切にしていきたいです。
- ・心に響きました。結果にばかりこだわってしまっていたことを反省しています。子どもを大好きと思う気持ちが大切だと思いました。
- ・感謝の言葉や「ごめんなさい」をもっと声に出して言おうと思いました。



事例3 子どもとともに育む幸せな生き方とは

会場：舟形町中央公民館

講師：わだ ゆきこ 氏（マザーデザイン 代表）

<全体講演会>

- 自分にとっての幸せを考える
 - ・大切にしたいことを考える→優先順位が決まる→悩みや迷いがなくなる
- 今できることをするために必要なこと
 - ・願います、相手を許す、甘える・・・
- 子どもも自分も幸せに生きる3つのコツ
 - ①自分にとっての幸せを知る
 - ②自分の傘（自分を知る、知識）をもつ
 - ③波乗り型の生き方



<参加者同士の意見交換>

- ・「どんな時に幸せを感じますか」
- ・自分の子どもについて

<感染防止の工夫> 手指消毒、マスク着用の徹底

<参加者の感想>

- ・子どもに幸せになってほしいので、まずは自分が幸せになりたいと思います。
- ・やる気が出ました。普段の普通の生活が幸せなのだと思います。
- ・こんなに明るい講話を聞いたのは初めてです。心が豊かになった気がします。
- ・もっと自分と向き合っ、自分のやりたいことをやってみようと思いました。いつも何かのせいにしてあきらめていた自分に気がつきました。

事例4 新入生保護者への応援メッセージ

会場：米沢市立第五中学校 柔剣道場

講師：尾形 敏行 氏（米沢市教育委員会学校教育課学校教育専門員）

<全体講演会>

- 1 地元の山「兜山」について
- 2 事前アンケートの結果について
 - ・勉強ができることは大事だけれども、その基盤となる大切なものがある…非認知能力
 - ・認知能力と非認知能力のバランスが大事
- 3 「自己肯定感について」
- 4 愛着について
- 5 スマホ対策について
- 6 体験の大切さ
 - 「本」は「本物」に間接的に触れることができるツール…「家読（いえどく）」おすすめ
- 7 一日の大半を過ごす「学校」について
- 8 親自身が自己肯定感を高めましょう。



<感染防止の工夫>

- ・入口での検温・手指消毒と広い場所（柔剣道場）で間隔をあけての座席指定。

<参加者の感想>

- ・これからの思春期の時期の子どもに対する関わり方を改めて考えさせられ、関わり方に活かせる”きっかけ”になった。
- ・今からでも子どもとの関わりを見つめ直し、認めてあげる子育てを心がけようと思った。

事例5 「考えよう！メディアとのつき合い方」

YouTube 配信：児童向け約10分 保護者向け約35分

講師：佐藤 慎太郎 氏（さとう小児科医院 院長）

<講演会>

【導入】・養護教諭による小国小の実態の紹介

（視力の低下、生活リズムとメディア、就寝時刻の遅れ）

【講話】

- ・子どもの生活習慣の変化（外で遊ぶ時間・睡眠時間の減少）
- ・スマホの保有率の増加（ここ10年）
- ・メディアによる脳の前頭前野への影響大。→脳の機能低下
- ・体力への影響大→将来的に生活習慣病へつながる。
- ・ネット依存、ゲーム障害→依存症（小中学生の割合が多い）

【まとめ】

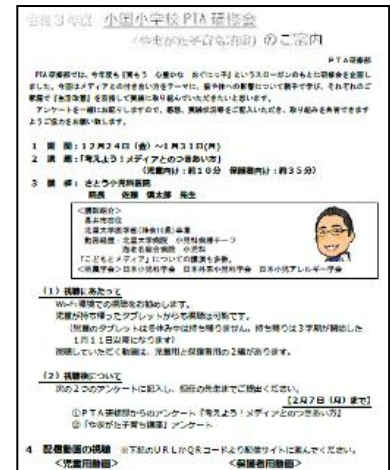
- ・生活リズムを整える、利用ルールを話し合っ決めて決める、大人が見本を示す（依存症にならないためにも）

<感染防止の工夫>

- ・感染防止対策として講演を一定期間 YouTube 配信した。（令和3年12月24～令和4年1月31日）

<参加者の感想>

- ・子どもとメディアの影響について話し、ルールを決める時間をつくることができた。
- ・親が子どもにメディアのことについて話しても素直に聞き入れてくれないが、専門の方のお話は説得力もあり、子どもにしっかりと伝わった。
- ・スマートフォンで講座を聞くことができたのは、手の空いた時間に見られたから。大変良かった。



事例6 命の輝きを感じる講座

会場：庄内町立余目中学校

講師：後藤 敬子 氏（ごっと助産院院長・県家庭教育アドバイザー）

<全体講演会>

【3年生】中学校卒業を見据えての講話

- 性行為に関わっての危険
- 自分を大切にすることについて

【1年生】命についての講話

- 思春期は誰も悩み苦しむことがあり、それが普通であること

<感染防止の工夫>

- ・マスク着用の徹底（講師はマウスシールドを着用）
- ・会場を体育館にし、座席の間隔を広く空けて密を避けた。



<主催者の感想>

- ・なかなか親や教員の立場では話すことが難しい内容も含まれており講話ただけてよかった。
- ・日々忙しい中であまり最近子供の声をゆっくり聞くことができなかつたなあと感じました。改めて家庭での子供との関わり方を大切にしようと思いました。

事例7 「4年生の歯科教室」

会場：酒田市立若浜小学校 体育館

講師：佐藤 寿之 氏（寿デンタルクリニック院長）

<全体講演会>

- 4年生は永久歯の生え替わりの時期であり、清潔な口腔環境を保つことが難しい。
- 高学年に向け生活リズムも不規則になりがちである。

↓

- むし歯の成立について科学的な知識を与える。
- 生活リズムとの関わりから、健康な歯を保つための生活習慣を見つめ直す。
- 一生自分の歯を健康に保つためには自己管理が大切。
- 毎日の生活習慣が深く関わっていることを理解させ、家庭での協力も得られるよう保護者にも広く啓発していく。

<感染防止の工夫>

- ・参加者へ事前に体温記入カードを配付し、当日の体温を記入して受付にて提出。
- ・会場を体育館にし、広い場所で密を避けた。



<参加者の感想>

- ・子どもと同じ話を聞くことができよかった。家で歯みがきや生活習慣について一緒に考えてみたいと思った。
- ・ぼくは今まで歯のことはあまり気にしていなかったけれど、話を聞いて、もっときれいに歯みがきしたいと思った。



◆家庭教育出前講座◆

事例1 「子どもとメディア～上手につきあう大事なポイント～」

出前先：戸沢村役場

講師：阿部 彰 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

①ゲームのやり過ぎが生活習慣の乱れにつながる

→良い生活習慣を身につけさせよう！

②生活習慣づくりの3つのポイント

(1) 計画化（スケジュール化）

(2) 行動の振り返り

(3) 共感と励まし

③私たち大人がやること

- ・一緒に計画し、対話的に振り返る
- ・チャレンジを励ます
- ・一生懸命に生きる姿を子どもに示す
- ・子どもを孤立化させない
→子どもの主体性を伸ばす



<感染防止の工夫>

手指消毒、検温の実施

<参加者の感想>

- ・「切り替えようとする気持ちを支える」この言葉を忘れず、子育てをしていきたいです。
- ・メディアとのかかわり方について、自分が子どものときとは全く変わっているので、悩みながらの育児になると思いますが、ヒントがみつかりました。

事例2 「コロナ対策と子どもの健康」

出前先：家庭教育応援・ボランティア活動団体「アベルんち」

講師：深瀬 龍 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

①コロナの3つの怖さ：感染症・差別・不安

- ・まだわからないことが多く、新しい情報に振り回される。

→新型コロナウイルスは『災害』と考える。
すべての人は『被災者』で、誰にも責める権利はない。

- ・「今」に関心を持つこと、公的な情報を利用すること、鵜呑みにしないで考えることが大事。

②子どものケアは難しい。自分が疲れているとなおさら難しい。

- ・だれかをケアするために、自分自身のケアをする。
- ・本当につらい時は、誰かを頼る。一人で抱え込まない。
- ・自分のストレスをケアする小技を増やす。(①とりあえず落ち着く ②つながる ③マインドフルネス ④コーピング)



<感染防止の工夫>

手指消毒、検温の実施、講演会の途中での換気

<参加者の感想>

- ・「自立とは、依存先を増やすこと」が目からウロコでした。
- ・コロナに限らず、あらゆることに対応していくために必要なことを改めて考える機会になりました。・叱ることと怒ることの違いが分かったような気がした。

事例3 「レジリエンス（精神的回復力）を高めるための職場づくり」

出前先：山形教育用品 置賜支店（南陽市）

講師：黒田 三佳 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

①レジリエンスの言葉の定義

- ・ここではレジリエンスを回復力と捉えることとする。

②人は褒められたり、認められたりすることで自信が持てる。

- ・後天的に獲得したものに対して褒める。

③回復力がある人の特徴を考える。

- ・自分軸がある人、いろんなことを楽しんでいる人、家族を大切にしている人、励ますことができる人、いつも笑顔の人など

④まとめ

- ・家庭や職場では調和を大切にする。家庭の安定が働く意欲にもつながる。
- ・レジリエンスを高められる職場とは心理的安全性と人間関係が良好なプロ集団である。



<感染防止対策>

- ・Zoomによるオンライン開催（黒田 三佳氏宅、山形教育用品株式会社置賜支店、置賜教育事務所）

<参加者の感想>

- ・講演を聞いて、より良い家庭、職場づくりに努めてまいりたいと思いました。
- ・ダメージを受けたものは、なかなか元に戻らない。心もダメージを受けたら元に戻りづらい。今できることを周りとの調和しながら行い、生活と心にゆとりをもっていこうと思いました。

事例4 「保育の心 ～安心・安全な居場所づくり～」

出前先：米沢市 ファミリー・サポート・センター（米沢市）

講師：高瀬 尚美 氏（県家庭教育アドバイザー）

<講演会>

①子どもをあずかる際の心構えとは

- ・子どもの命をあずかっている。あずかっている間は全責任がある。

②安心して利用してもらうには

- ・信頼関係を築く。第一印象が大事。笑顔、あいさつ、言葉遣い

③あずかる際のお家の環境の整え方は

- ・子どもの目の高さで安全確認。室内、外、外回り等（転倒、転落、ポット、ヒーター）

<感染防止対策>

- ・健康チェック票、2週間前の行動票の提出 ・検温 ・手指消毒 ・人数制限を設け、間隔を空けての座席の配置

<参加者の感想>

- ・子育て支援をする上での心構えや注意すべきことなど、具体例を挙げてたくさんお話いただいた貴重な時間でした。
- ・安心・安全な居場所づくりの大切さや、サポートする上での親御さんとの信頼関係づくりが重要であることがわかりました。命をあずかるということは大変なことですが勉強しながらあずかりをしていきたいと思えます。



事例5 「家庭で育む 命の尊さ」

出前先：家庭教育支援チームSR会（酒田市）

講師：後藤 敬子 氏（ごっと助産院院長・県家庭教育アドバイザー）

<全体講演会>

- 家庭で育む命の尊さが出発点
- 命の尊さを伝えるには、命を実感することが大事
- 家庭の中でいつ・どのようにして育むか
- 人は3回生まれ、3回死ぬ!?

<感染防止の工夫>

- ・マスク着用の徹底（講師はマウスシールドを着用）
- ・座席の間隔を空け、互い違いに配置。

<参加者の感想>

- ・子育てができることの幸せを感じることができました。日々時間に追われ…忘れていた大切なことを思い出し、とても幸せな時間を過ごすことができました。
- ・敬子先生の話し方に引き込まれ、あっという間の2時間でした。思春期の子どもを前に自分のことを省みず「伝えて」ばかりだったので、まずは話を聞いてともに学び成長していけたらいいなと思いました。
- ・自分の生きるヒント、子育てのヒントをいただき「子育てをしっかりとやらなきゃ！」という重荷が取れ、周りのマイナスな言葉に惑わされず子育てをしていきたいと思いました。
- ・家に帰ったら、我が子を抱きしめて「あなたは私の宝ものだよ」と伝えたいと思います。



◆幼児共育ふれあい広場◆

事例1 「ゆったり・ゆっくり子育て講座」

会場：学校法人児玉学園ながさき幼稚園

講師：大沼 千絵 氏（県家庭教育アドバイザー）

〈全体の流れ〉

- 1 開会
- 2 園長挨拶・講師紹介
- 3 リトミック
音楽に合わせて手遊び（幼稚園教諭）
- 4 講座 「わが子のリソースさがし」
 - ①あるあるバスケット
好き
ハマる
遊び
+ 困るな～
 - ②〇〇なしゅんかん
キュン
たまらん
とうとい
- 5 閉会

〈感染防止対策〉

- ・参加人数の制限
- ・換気
- ・健康状態の確認 など

〈参加者の感想〉

- ・日々目まぐるしく過ごしている中で、子供のこと（好きなものや苦手なこと、かわいいということ）をふりかえる、いいきっかけになりました。
- ・他の保護者と共有できる感情があることに気が付き、心が温くなりました。
- ・これまでは思っても声に出したことがありませんでした。



事例2 「幼児期の子どもへの関わり方」

会場：こまどり保育所（鮭川村）

講師：佐藤 成美 氏（県家庭教育アドバイザー）

〈全体講演会・読み聞かせ〉

- ・幼児期の子どもと親のふれあいが、その後の関係に大きく影響する。
- ・講師のこれまでの育児の実例（失敗談）
- ・失敗から学んだこと
- ・やまがた子育て5か条の説明
- ・講師おすすめの本の紹介

〈情報交換〉

- ・付箋を用いたワークショップ（育児をされていてうれしかったこと・迷ったこと、子どもに期待することについて）



〈感染防止の工夫〉

- ・マスクの着用と手指消毒の徹底

〈参加者の感想〉

- ・講師の体験を交えた話がとてもよかったです。もっと話をきいてみたいと思いました。
- ・子どもに不安や失敗を誘導させる言い方を使わない言い方が勉強になりました。
- ・ほかの家庭でのうれしかったことや困っていることを共有することができ、今後の育児の参考になりました。

事例3 「絵本との出会いを大切に～教えて！発達段階に応じた絵本の選び方～」

会場：新庄市子育て支援センター

講師：郷野目 香織 氏・小屋 絵美 氏（新庄市立図書館）

<講話と読み聞かせ>

- ・ 0歳～3歳児の親子を対象に、それぞれの年齢や発達に合わせた絵本選びのポイントについて
- ・ おすすめの本の紹介
- ・ 読み聞かせ

<フリータイム>

- ・ 親子で絵本の読み聞かせ
- ・ 司書による絵本選びのアドバイス

<感染防止の工夫>

- ・ マスクの着用と手指消毒の徹底

<参加者の感想>

- ・ 本の大切さを知ることができました。一緒に参加した親子とも交流することができ、刺激になりました。
- ・ 一度にたくさんの本と接する良い機会となりました。図書館も利用してみたいと思いました。
- ・ 子どもが間もなく2歳になりますが、簡単な絵本しか読んであげていませんでした。月齢に合ったものが分からずに困っていたので大変参考になりました。



事例4 「みんなでみよう！たのしもう！～夏祭り&人形劇～」

会場：おのがわ保育園ドレミ館

講師：須藤 翔平 氏（やまがた人形劇の会 事務局長ぐう・ちよき・ばあ主宰）

<全体の流れ>

- 1 人形劇
- 2 手遊び
- 3 花火・金魚すくい

<感染防止の工夫>

- ・ 人形劇の上演時間を短縮した。
- ・ 演者との直接的交流を避けた。

<参加者の感想>

- ・ 子どもが釘付けになる楽しさでした。
- ・ とても良かったです。理由は普通の「うさぎとかめ」の本とは少し違う感じでやっていたからです。
- ・ ゲームやYouTubeなどのメディアの時間が増える中、今回の行事に参加したことで生で観る人形劇でしか味わえないワクワクドキドキがあり、子どもたちも夢中になっていました。



事例5 「こどもの心と体の健康について～新型コロナの現状と対策を踏まえて～」

会場：飯豊町文総合センター「あ～す」

講師：佐藤 慎太郎 氏（さとう小児科医院 院長）

<全体の流れ>

- 1 開会の言葉
- 2 父母の会会長、園長挨拶
- 3 講師紹介
- 4 講演
- 5 質問・感想等
- 6 講師退場・閉会



<感染防止の工夫>

- ・会場に入る前の検温・消毒、マスク着用の徹底。
- ・座席を一定間隔話、前後が重ならないように椅子を配置。

<参加者からの感想>

- ・コロナに関して知らない知識が多く大変勉強になった。
- ・コロナ下での子どもとの向き合い方や病気の際に気を付けることなどを、かかりつけの先生から聞くことが出来てよかった。
- ・判断能力に乏しい子どもに代わり、親が正しい知識と見解を持つことが重要だということがわかった。

事例6 「親子陶芸教室」

会場：北新橋保育園

講師：下妻 さき子 氏

<親子体験>

- 親子で抹茶茶碗と菓子皿を作る。
- 親子で一緒に作品を作り上げる体験を通し、陶芸の楽しさを味わう。
- 焼きあがった茶碗を使って「お茶会」をし、保護者を招き、お運びをする子どもの成長を喜び合う。



<感染防止の工夫>グループを2つに分け、少人数で実施することで密を避けた。



<○参加者の感想・主催者の感想>

- 子どもたちが自分で考え楽しんでいてよかった。
- 子どもが経験できないことをできたのでよかった。
- 陶芸に興味があり、やってみたかったのでよかった。
- ・昨年度に引き続き実施したが、保護者の満足度が高いことから、今後も実施していきたい。
- ・コロナ禍ということで、2つのグループに分かれて少人数で行ったので、講師の先生は「目が届きやすかった」とおっしゃっていた。

事例7 『らくらく育児講座「親子で簡単リズムあそび」』

会場：遊佐町子どもセンター

講師：小松 睦 氏

<親子体験> 未就園児の親子5組（大人5名、子6名）

○歌やリズムに合わせて身体を自由に動かして表現を楽しむ。

<感染防止の工夫>

- ・会場の広さを考慮し、定員を減らして募集。（定員を超えた場合はキャンセル待ち）
- ・受付にて検温、手指消毒。

<○参加者の感想・主催者の感想>

○音に合わせて身体を動かし、親子で楽しく取り組むことができた。

○子どもが楽しくやっていたのでよかった。

○活動が細かくあり、子どもが飽きずに楽しむことができた。

- ・鈴が鳴るもの、鳴子、カラーハンカチーフやアイラップなど身近なものを使い様々なジャンルの音楽に合わせて、親子一緒に楽しみながら身体を動かしていた。
- ・たっぷりと1時間リズム遊びを行ったが、年齢が低い子たちだったので45分間くらいでも良かった。音楽が好きな子は最初から最後までたっぷり楽しんだ。

